

PANTY GIRDLE

Publication number: JP2000135233

Publication date: 2000-05-16

Inventor: SANO MICHIKO

Applicant: SANO MICHIKO

Classification:

- International: **A41C1/00; A41C1/02; A41C1/08; A61F5/02; A61F5/03; A41C1/00; A61F5/01; A61F5/02;** (IPC1-7): A41C1/02; A61F5/02; A41C1/00

- European: A41C1/00C; A41C1/08; A61F5/03

Application number: JP19990145847 19990526

Priority number(s): JP19990145847 19990526; JP19980239771 19980826

Also published as:



EP0988803 (A)

US6080038 (A)

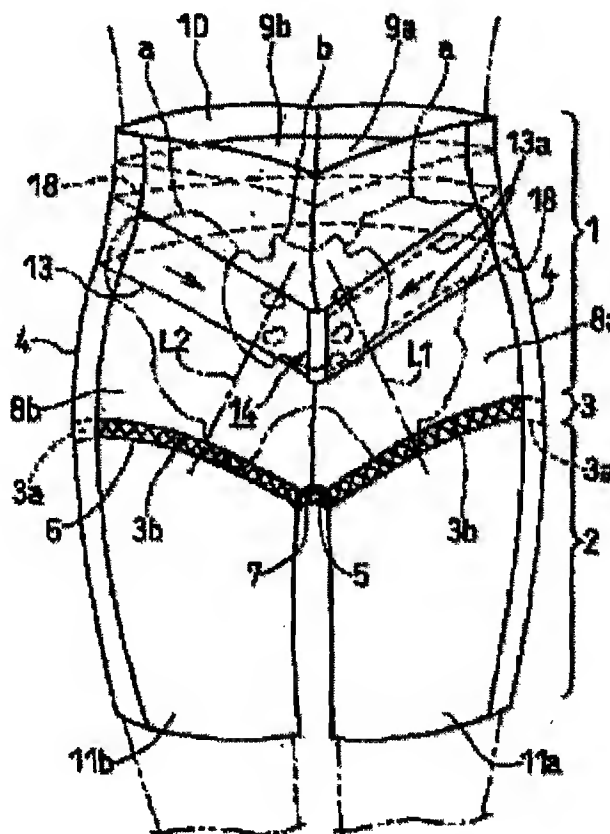
EP0988803 (B)

Report a data error he

Abstract of JP2000135233

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a panty girdle having correct pelvis correcting operation by tightening iliums on the right and the left in the pelvis in their natural rotation directions.

SOLUTION: In a panty girdle comprising a panty part composed of front parts 8a and 8b to cover an abdomen and back parts 9a and 9b to cover buttock parts and lower back parts coupled with each other at both side parts and a crotch part, a belt 13 comprising expansion material having stronger contraction force than material of the front parts 8a and 8b and the back parts 9a and 9b is provided to cross corresponding parts to upper parts of the right and the left iliums (a) in a lateral direction in the back parts 9a, 9b, be extended from both side parts of the iliums (a) inward and downward in the front parts 8a and 8b, and be coupled at both end parts by coupling means 14 which can be engaged with/disengaged from each other roughly at a center between the front parts 8a and 8b.



(43)公開日 平成12年5月16日(2000.5.16)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコート* (参考)
A 6 1 F 5/02		A 6 1 F 5/02	K 4 C 0 9 8
A 4 1 C 1/00		A 4 1 C 1/00	C
// A 4 1 C 1/02		1/02	B

審査請求 未請求 請求項の数14 O.L (全 9 頁)

(21)出願番号	特願平11-145847
(22)出願日	平成11年5月26日(1999.5.26)
(31)優先権主張番号	特願平10-239771
(32)優先日	平成10年8月26日(1998.8.26)
(33)優先権主張国	日本(JP)

(71)出願人 593097627
佐野 道子
香川県丸亀市土器町東八丁目50 京極マン
ション610号

(72)発明者 佐野 道子
香川県丸亀市土器町東八丁目50 京極マン
ション610号

(74)代理人 100060759
弁理士 竹沢 莊一 (外2名)

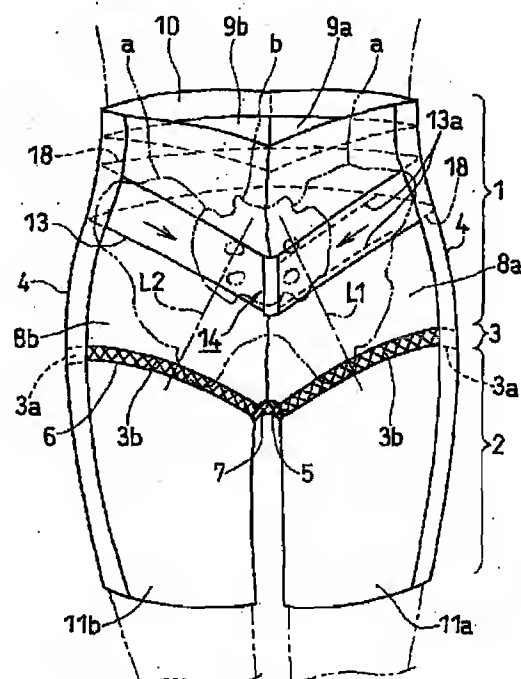
Fターム(参考) 4C098 AA02 BB08 BC03 BC08

(54) 【発明の名称】 パンティーガードル

(57) 【要約】

【課題】 パンティーガードルにおいて、骨盤における左右の腸骨を、その本来の回動方向に向かって引き締めることにより、正常な骨盤矯正作用が得られるようにする。

【解決手段】 腹部を覆う前身頃 8 a、8 b と、臀部及び背の下部を覆う後身頃 9 a、9 b とを、両側部と股部とにおいて結合したパンティー部 1 を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部 1 に、前身頃 8 a、8 b 及び後身頃 9 a、9 b の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルト 13 を、後身頃 9 a、9 b においては、左右の腸骨 a の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前身頃 8 a、8 b においては、腸骨 a の両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃 8 a、8 b のほぼ中において係脱自在な結合手段により結合されるようにして装着する。



FP 03- 0352
08. 9. 02
ALLOWED

【特許請求の範囲】

【請求項1】 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃のほぼ中央において係脱自在な結合手段により結合されるようにして装着したことを特徴とするパンティーガードル。

【請求項2】 ベルトの一方の端部近傍のみを前身頃に縫着した請求項1記載のパンティーガードル。

【請求項3】 後身頃に、ベルトが左右方向に挿通するベルト挿通部を設けた請求項1または2記載のパンティーガードル。

【請求項4】 結合手段を、ベルトの長さ調節可能のものとした請求項1～3のいずれかに記載のパンティーガードル。

【請求項5】 結合手段が、ベルトの一端に設けられた1個または複数個のフックと、該フックの個数と同数のものを1段として、複数段をベルトの長手方向に並べてベルトの他端部に設けられ、かつ前記フックが選択的に係合しうるようにした受けとを備えている請求項1～4のいずれかに記載のパンティーガードル。

【請求項6】 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃のほぼ中央において互いに結合するようにして装着したことを特徴とするパンティーガードル。

【請求項7】 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出して、前身頃のほぼ中央において互いに交差し、かつ両端部がパンティー部の両側部に縫着されるようにして装着したことを特徴とするパンティーガードル。

【請求項8】 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が

強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出して、前身頃のほぼ中央において互いに交差し、さらに、パンティー部の両側部を回って、後身頃の下部中央まで延出し、そこで両端部が互いに結合されるようにして装着したことを特徴とするパンティーガードル。

【請求項9】 前身頃の少なくとも一部の上縁よりほぼ下方に向かって切込みを設け、該切込みにファスナを設けた請求項6～8のいずれかに記載のパンティーガードル。

【請求項10】 切込みの向きを、前身頃の両側部より内下方に向かって延出するベルトとほぼ直交する方向を向くように設けた請求項9記載のパンティーガードル。

【請求項11】 前身頃におけるファスナ装着部の内面に、ほぼ逆三角形をなす裏当て布の両側部を縫着した請求項9または10記載のパンティーガードル。

【請求項12】 前身頃の上縁の複数個所に切込みとファスナとを設けた請求項9～11のいずれかに記載のパンティーガードル。

【請求項13】 ベルトを、前身頃の内面に縫着した請求項6～12のいずれかに記載のパンティーガードル。

【請求項14】 パンティー部の両側部に、前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性繊維または非伸縮性繊維よりなるパワーネット側布を配設し、前記パワーネット側布におけるベルトとの交差部の内面に袋状のベルト挿通部を設け、該ベルト挿通部にベルトを挿通させた請求項1～13のいずれかに記載のパンティーガードル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、骨盤矯正機能を有するパンティーガードルに関する。

【0002】

【従来の技術】従来のパンティーガードルには、骨盤における左右の腸骨の上部を引き締めることにより、開いた骨盤全体を閉じるように矯正するようにしたものがあ

【0003】

【発明が解決しようとする課題】骨盤における左右の腸骨は、脊柱の延長線である完全な垂直軸を中心として開閉するのではなく、仙骨との連結部において、外下向き傾斜する仮想の軸線を中心として回転するようになっている。

【0004】それに対して、上述のような従来の骨盤矯正機能を有するパンティーガードルは、左右の腸骨の上部を、ほぼ水平方向に引き締めるようになっているので、その引き締め方向と腸骨の本来の回転方向とにずれが生じ、このずれが腸骨と仙骨その他の骨との連結部に

ストレスとなって作用し、矯正効果に悪影響を及ぼしている。

【0005】また、腰まわりの長さを調節する手段を設けていないパンティーガードルにおいては、腰まわりより太ももまわりが長い人の場合、パンティーガードルの腰まわりのサイズを太ももまわりのサイズに合わせると、腰まわりがゆるくなり、骨盤矯正の役割を果たせず、一方、太ももまわりより腰まわりが長い人の場合、腰部を締めつけすぎる傾向がある。

【0006】本発明は、従来のパンティーガードルが有している上記のような問題点を鑑み、骨盤における左右の腸骨をその本来の回動方向に向かって引き締めることができ、正常な骨盤矯正作用が得られるようにするとともに、腰部の筋肉の弛みをとることができ、しかも腰まわりの長さを調節しうるようにしたパンティーガードルを提供することを目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明によると、上記課題は、次のようにして解決される。

(1) 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃のほぼ中央において係脱自在な結合手段により結合されるようにして装着する。

【0008】(2) 上記(1)項において、ベルトの一方の端部近傍のみを前身頃に縫着する。

【0009】(3) 上記(1)または(2)項において、後身頃に、ベルトが左右方向に挿通するベルト挿通部を設ける。

【0010】(4) 上記(1)～(3)項のいずれかにおいて、結合手段を、ベルトの長さ調節可能なものとする。

【0011】(5) 上記(1)～(4)項のいずれかにおいて、結合手段を、ベルトの一端に設けられた1個または複数個のフックと、該フックの個数と同数のものを1段として、複数段をベルトの長手方向に並べてベルトの他端部に設けられ、かつ前記フックが選択的に係合しうるようにした受けとを備え結合手段を、ベルトの一端に設けられた1個または複数個のフックと、該フックの個数と同数のものを1段として、複数段をベルトの長手方向に並べてベルトの他端部に設けられ、かつ前記フックが選択的に係合しうるようにした受けとを備えるものとする。

【0012】(6) 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮

力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃のほぼ中央において互いに結合するようにして装着する。

【0013】(7) 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出して、前身頃のほぼ中央において互いに交差し、かつ両端部がパンティー部の両側部に縫着されるようにして装着する。

【0014】(8) 腹部を覆う前身頃と、臀部及び背の下部を覆う後身頃を両側部と股部とにおいて結合したパンティー部を有するパンティーガードルにおいて、前記パンティー部に、前記前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性材料よりなるベルトを、前記後身頃においては、左右の腸骨の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前記前身頃においては、腸骨の両側部より内下方に向かって延出して、前身頃のほぼ中央において互いに交差し、さらに、パンティー部の両側部を回って、後身頃の下部中央まで延出し、そこで両端部が互いに結合されるようにして装着する。

【0015】(9) 上記(6)～(8)項のいずれかにおいて、前身頃の少なくとも一部の上縁よりほぼ下方に向かって切込みを設け、該切込みにファスナを設ける。

【0016】(10) 上記(9)項において、切込みの向きを、前身頃の両側部より内下方に向かって延出するベルトとほぼ直交する方向を向くように設ける。

【0017】(11) 上記(9)または(10)項において、前身頃におけるファスナ装着部の内面に、ほぼ逆三角形形状をなす裏当て布の両側部を縫着する。

【0018】(12) 上記(9)～(11)項のいずれかにおいて、前身頃の上縁の複数個所に切込みとファスナとを設ける。

【0019】(13) 上記(6)～(12)項のいずれかにおいて、ベルトを、前身頃の内面に縫着する。

【0020】(14) 上記(6)～(13)項のいずれかにおいて、パンティー部の両側部に、前身頃及び後身頃の材質より収縮力が強い伸縮性繊維または非伸縮性繊維よりなるパワーネット側布を配設し、前記パワーネット側布におけるベルトとの交差部の内面に袋状のベルト挿通部を設け、該ベルト挿通部にベルトを挿通させる。

【0021】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、添付図面を参照して説明する。図1～図3は、本発明の第1の実施形態を示す。(1)は、腹部と、臀部及び背の下

部とを覆うパンティー部、(2)は、大腿部を覆う大腿被部で、これは、所要幅の股関節部(3)を介してパンティー部(1)に連設されている。

【0022】(4)は、縦横両方向に強い収縮力を有する伸縮性繊維、または非伸縮性繊維よりなる所要幅の帯状のパワーネット側布で、パンティー部(1)及び大腿被部(2)の両側部に、股関節部(3)の側面部(3a)を跨いで上下に連続するように配設されている。

【0023】股関節部(3)における側面部(3a)から、両大腿被部(2)の分岐部である股部(5)に至る股関節部(3)の前面部(3b)及び後面部(3c)は、伸縮性繊維をバイアス編みすることにより、縦横両方向の収縮力がパワーネット側布(4)より弱い所要幅のメッシュテープ(6)をもって構成されている。各メッシュテープ(6)の上縁はパンティー部(1)に、同じく下縁は大腿部(2)に、同じく外側縁はパワーネット側布(4)に、また同じく内側縁は股部(5)にそれぞれ縫着されている。股部(5)は、メッシュテープ(6)と同一か、又はその他の通気性と弾力性にと富んだメッシュ材(7)により構成されている。

【0024】パンティー部(1)の前面は、伸縮性のない例えばシルク等の布地か、またはパワーネット側布(4)より収縮力の弱い伸縮性素材よりなる左右の前身頃(8a)(8b)を互いに縫着し、かつ左右の前身頃(8a)(8b)の外側縁を、パワーネット側布(4)の上半部前縁に縫着したもののようになっている。

【0025】パンティー部(1)の後面は、前身頃(8a)(8b)よりさらに収縮力の弱い薄地の伸縮性レース地よりなる左右の後身頃(9a)(9b)を中央で互いに縫合し、両側部をパワーネット側布(4)に、かつ下部中央を股部(5)に、それぞれ縫着したもののようになっている。

【0026】パンティー部(1)の上端部内周においては、環状に連続する平ゴム(10)が、両パワーネット側布(4)、前身頃(8a)(8b)及び後身頃(9a)(9b)の各上端部にそれぞれ縫着されている。

【0027】かくして、両パワーネット側布(4)の上半部、前身頃(8a)(8b)、後身頃(9a)(9b)、平ゴム(10)等により、パンティー部(1)が形成されている。

【0028】各大腿被部(2)は、パワーネット側布(4)の下半部をその一部とし、その前後の側縁部に、パンティー部(1)の前身頃(8a)(8b)と同材質の左右の前身頃(11a)(11b)と後身頃(12a)(12b)との各外側縁を縫合するとともに、前身頃(11a)(11b)と後身頃(12a)(12b)との内側縁同士を互いに縫合し、それらの上縁部をメッシュテープ(6)及びメッシュ材(7)に縫着することにより形成されている。

【0029】以上の構成は、本出願人の先願に係る実公平4-21764号公報に開示されているものとほぼ同様のものであり、この構成により、腰部から大腿部にかけてのシルエットをスマートなものとすることができるとともに、屈伸運動を楽に行なうことができ、また臀部

と大腿部との脂肪を持ち上げ、しかも、持ち上げられた脂肪が屈伸運動等により次第に垂下してくるのを阻止することができる等の作用効果を奏することができる。

【0030】本実施形態では、上記の構成に、前身頃(8a)(8b)及び後身頃(9a)(9b)の材質より収縮力が強い、例えばゴム等の伸縮性材料よりなるベルト(13)を、後身頃(9a)(9b)においては、着用者の左右の腸骨(a)の上部に対応する部分を左右方向に横切り、前身頃(8a)(8b)においては、両側部より内下方に向かって延出し、かつ両端部が前身頃(8a)(8b)のほぼ中央において係脱自在な結合手段(14)により結合されるようにして、パンティー部(1)に装着するという構成を付加したことを特徴としている。

【0031】ベルト(13)は、その左端部近傍のみが左前身頃(8a)に縫着されている。(13a)は、その縫着部である。結合手段(14)は、図3に示すように、ベルト(13)の右端に設けられた複数個(1個としてもよい)のフック(15)と、このフック(15)の個数と同数のものを1段として、複数段(この例では3段)をベルト(13)の長手方向に並べてベルト(13)の左端部に設けられ、かつフック(15)が選択的に係合しうるようにしたリング状の受け(16)とからなるものとし、ベルト(13)の実効長を調節できるようにしている。

【0032】左右の後身頃(9a)(9b)の縫合部の上部には、ベルト(13)が左右方向に挿通するベルト挿通部をなすひも状のベルト通し(17)が設けられている。

【0033】パワーネット側布(4)におけるベルト(13)との交差部の内面には、袋状のベルト挿通部(18)が設けられ、このベルト挿通部(18)にベルト(13)が挿通されている。

【0034】この実施形態のようにすると、着用者の骨盤における左右の腸骨(a)は、ベルト(13)により、図1に示すように、外下向き傾斜する仮想の軸線(L1)(L2)を中心として、前身頃(8a)(8b)におけるベルト(13)の延出方向とほぼ一致する本来の回動方向に向かって引き締められ、正常な骨盤矯正効果が得られる。

【0035】すなわち、ベルト(13)による左右の腸骨(a)の引き締め方向と腸骨(a)の本来の回動方向とがほぼ一致し、それらの間にずれが生じることがないので、ずれが生じる従来のもののように、そのずれが腸骨(a)と仙骨(b)その他の骨(図示略)との連結部にストレスとなって作用し、矯正効果に悪影響を及ぼすといったことがない。

【0036】図4は、本発明の第2の実施形態を示す。なお、第1の実施形態のものと同様の部材には、同一の符号を付して図示するに止め、それらについての詳細な説明は省略する(第3以降の実施形態においても同様とする)。

【0037】第2の実施形態においては、第1の実施形態のベルト(13)より幅広とした同様のベルト(20)を、全

長に亘って、前身頃(8a)(8b)及び後身頃(9a)(9b)の内面に縫着するとともに、左右の前身頃(8a)(8b)の間で開閉しうる前開きとし、その左右の前身頃(8a)(8b)のいずれか一方に上記と同様の複数のフック(15)を設け、かつ他方に、このフック(15)の個数と同数のものを1段として、複数段(この例では4段)のリング状の受け(16)をほぼベルト(20)の長手方向に並ぶようにして設け、上記フック(15)をいずれかの段の受け(16)に選択的に係合することにより、前面の開口部を閉じるとともに、ベルト(20)の実効長を調節できるようにしている。すなわち、この実施形態においても、フック(15)と受け(16)とが、間接的にベルト(20)の結合手段(14)となっている。この第2の実施形態においても、第1の実施形態と同様の作用及び効果を奏することができる。

【0038】図5は、本発明の第3の実施形態を示す。第3の実施形態においては、第2の実施形態におけるのと同様に、ベルト(20)を、全長に亘って、前身頃(8a)(8b)及び後身頃(9a)(9b)の内面に縫着するとともに、前開き部分を、左前身頃(8a)において、ベルト(20)とほぼ直交する斜め下方を向くように形成し、その前開き部分のいずれか一方の側縁部に、上記と同様の複数のフック(15)を設け、かつ他方の側縁部に、フック(15)の個数と同数のものを1段として、複数段のリング状の受け(16)をほぼベルト(20)の長手方向に並ぶようにして設け、上記フック(15)をいずれかの段の受け(16)に選択的に係合することにより、前開き部分を閉じるとともに、ベルト(20)の実効長を調節できるようにしている。なお、複数のフック(15)を、複数段の受け(16)に跨って係合させることにより、図5に想像線で示すように、前開き部分の一方の側縁部を、他方の側縁部に対して斜めに重ね合わせることにもできる。この実施形態においても、フック(15)と受け(16)とが、間接的にベルト(20)の結合手段(14)をなし、第1の実施形態と同様の作用及び効果を奏することができる。

【0039】図6は本発明の第4の実施形態を示す。第4の実施形態においては、フック(15)に係合する複数段の受け(16)の列を、下方に向かって収束するほぼV字状の配置とし、パンティー部(1)の上部を体形に合わせて引き締めることができるようにしている。

【0040】図7は本発明の第5の実施形態を示す。第5の実施形態においては、パンティー部の前身頃(8a)(8b)の上縁における左右2箇所(3箇所以上とすることもある)に、ベルト(20)と直交する方向を向くように、切込み(21)を外下方に向かって設け、各切込み(21)に、公知のファスナ(22)を設けてある。

【0041】前身頃(8a)(8b)におけるファスナ(22)装着部の内面には、切込み(21)が所要幅V字状に開いた状態でピンと張るようにしたほぼ逆三角形の裏当て布(23)の両側部が縫着されている。

【0042】ベルト(20)の両端部は、前身頃(8a)(8b)の

裏当て布(23)の内面と前身頃(8a)(8b)の内面全体とにわたって縫着されている(部分的に縫着するだけでもよい)。ベルト(20)の後半部は、後身頃(9a)(9b)の内面全体に縫着するのが好ましいが、任意の箇所だけ縫着してもよい。

【0043】第1～第4の実施形態は、女性用のものであるが、この第5の実施形態においては、前身頃(8a)(8b)の下部中央に開口(24)を設けるとともに、その前方を、ほぼ逆三角形の伸縮性メッシュ地よりなり、かつ左右の外上向き傾斜する下縁のみを大腿被部(2)の上部に縫着した覆布(25)により覆うことによって、男性用としてある。

【0044】第5の実施形態によると、複数のファスナ(22)のいずれかを開くことにより、腰まわり長を段階的に長くすることができ、また全ファスナを開くことにより、パンティーガードルを容易に着脱することができる。

【0045】切込み(21)の向きを、ベルト(20)と直交する方向としたことにより、ファスナ(22)を締めるとき、前身頃(8a)(8b)がベルト(20)と同方向に引き締められ、ベルト(20)の引き締め力を補助し、正常な骨盤矯正効果をさらに高めることができる。

【0046】図8は第6の実施形態を示している。第6の実施形態においては、ベルト(20)を前身頃(8a)(8b)において、腸骨の両側部より内下方に向かって延出させて前身頃(8a)(8b)のほぼ中央で交差させ、両端部をパンティー部(1)の両側部まで延出させてパワーネット側布(4)の内面に縫着してある。

【0047】ベルト(20)の両端部を、前身頃(8a)(8b)の中央から両側部まで延出させたことにより、ベルト(20)による引き締め力が増加し、骨盤矯正効果をさらに高めることができ、また、ベルト(20)は、前身頃(8a)(8b)の中央から両側部まで外下方に向かって延出しているので、前身頃(8a)(8b)の上方へのずれを防止することができる。

【0048】図9及び図10は第7の実施形態を示している。第7の実施形態においては、図8に示すベルト(20)を、パンティー部(1)の両側部を交差させ、さらに、後身頃(9a)(9b)のほぼ下部中央まで延出し、そこで、ベルト(20)の両端部を結合している。こうすることにより、臀部を引き上げる、すなわち、ヒップアップを図ることができる。

【0049】なお、図1～図6に示す上述の結合手段(14)は、上記のフック(15)とリング状の受け(16)とからなるものだけでなく、例えば、公知の面ファスナを用いたもの、またはバックル式のものとすることができる。

【0050】また、本発明は、上記のパワーネット側布(4)やメッシュテープ(6)等を有しない公知の単純なパンティーガードルにベルト(13)を装着して実施することもできる。

【0051】

【発明の効果】請求項1及び6～8記載の発明によると、ベルトの両端部がパンティー部の前面において内下方に向かって延出し、着用者の骨盤における左右の腸骨を、その本来の回動方向に向かって引き締めることができるので、腸骨の本来の回動方向とベルトによる引き締め方向との間にずれが生じることがなく、正常な骨盤矯正効果を得ることができるとともに、腹部の筋肉の弛みをとることができる。すなわち、腸骨の本来の回動方向とベルトによる引き締め方向との間のずれにより、腸骨と仙骨その他の骨(図示略)との連結部にストレスが生じ、矯正効果に悪影響を及ぼすといったことがない。

【0052】請求項1記載の発明のように、ベルトの両端部を係脱させる結合手段を前身頃のほぼ中央に設けると、パンティーカードルを容易に着脱することができる。

【0053】請求項2記載の発明によると、ベルトは、前身頃に縫着された部分以外の部分が自由に伸縮することができ、強力な骨盤引き締め力を発揮することができるとともに、ベルトの長さ調節が可能となる。

【0054】請求項3記載の発明によると、ベルトを正規の装着位置に保持することができ、かつベルトの伸縮を妨げることがない。

【0055】請求項4記載の発明によると、着用者の体型の変動や、希望する引き締め力に応じて、ベルトの実効長を変えることができる。

【0056】請求項5記載の発明によると、結合手段を、簡単な構造とし、安価に製造することができる。

【0057】請求項7記載の発明によると、ベルトによる骨盤矯正効果をさらに高めることができるとともに、前身頃の上方へのずれを防止することができる。

【0058】請求項8記載の発明によると、請求項7記載の発明の効果をさらに高めることができるとともに、臀部を引き上げ、体形の向上を図ることができる。

【0059】請求項9記載の発明によると、ファスナを開くことにより、腰まわり長を長くしたり、着脱を容易としたりすることができる。

【0060】請求項10記載の発明によると、ファスナを締めたとき、前身頃がベルトと同方向に引き締められるので、ベルトの引き締め力を補助し、正常な骨盤矯正効果をさらに高めることができる。

【0061】請求項11記載の発明によると、ファスナを開いた際の切込みの開き代を一定に保つことができ、腰まわり長の調節に便利であるとともに、ファスナを開いた際の外観をよくすることができる。

【0062】請求項12記載の発明によると、ファスナを開く個数を選択することにより、腰まわり長を段階的に調節することができる。

【0063】請求項13記載の発明によると、ベルトが

前身頃から妄りに位置ずれすることがない。

【0064】請求項14記載の発明によると、ベルトをパワーネット側布の内側に通すことにより、腰部から大腿部にかけてのシルエットに、ベルトの引き締めによる陥没部を生じさせないように、または陥没を少なくすることができ、シルエットをスマートなものとすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態の正面図である。

【図2】同じく、背面図である。

【図3】同じく、結合手段を開いたときの状態を示す要部の斜視図である。

【図4】本発明の第2の実施形態の正面図である。

【図5】本発明の第3の実施形態の正面図である。

【図6】本発明の第4の実施形態の正面図である。

【図7】本発明の第5の実施形態の正面図である。

【図8】本発明の第6の実施形態の正面図である。

【図9】本発明の第7の実施形態の側面図である。

【図10】同じく、背面図である。

【符号の説明】

(1)パンティー部

(2)大腿被部

(3)股関節部

(3a)側面部

(3b)前面部

(3c)後面部

(4)パワーネット側布

(5)股部

(6)メッシュテープ

(7)メッシュ材

(8a)(8b)前身頃

(9a)(9b)後身頃

(10)平ゴム

(11a)(11b)前身頃

(12a)(12b)後身頃

(13)ベルト

(13a)縫着部

(14)結合手段

(15)フック

(16)受け

(17)ベルト通し

(20)ベルト

(21)切込み

(22)ファスナ

(23)裏当て布

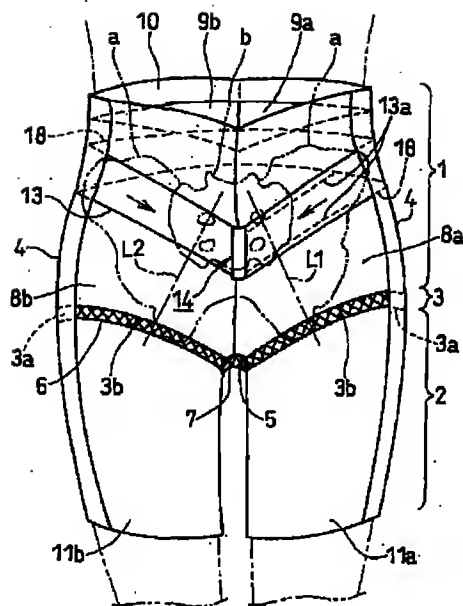
(24)開口

(25)覆布

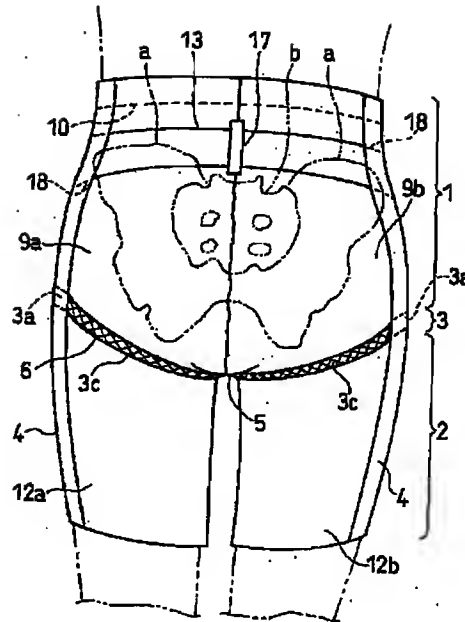
(a)腸骨

(b)仙骨

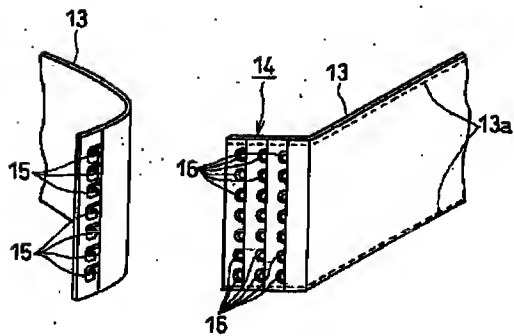
【図1】



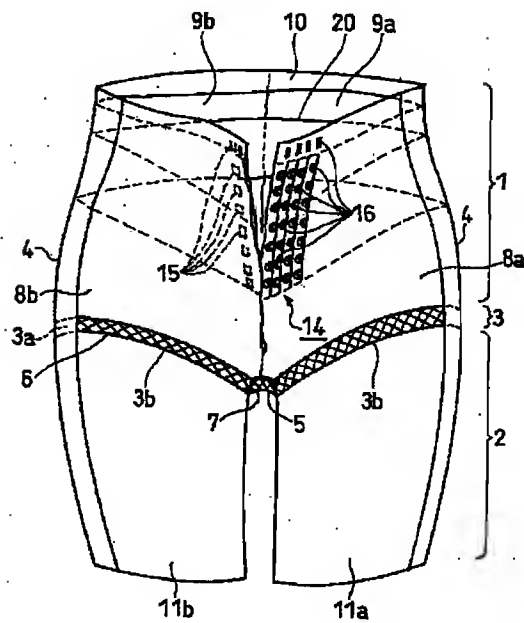
【図2】



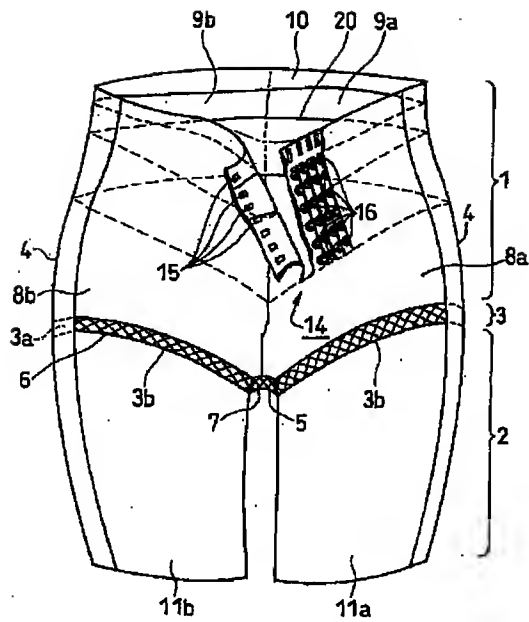
【図3】



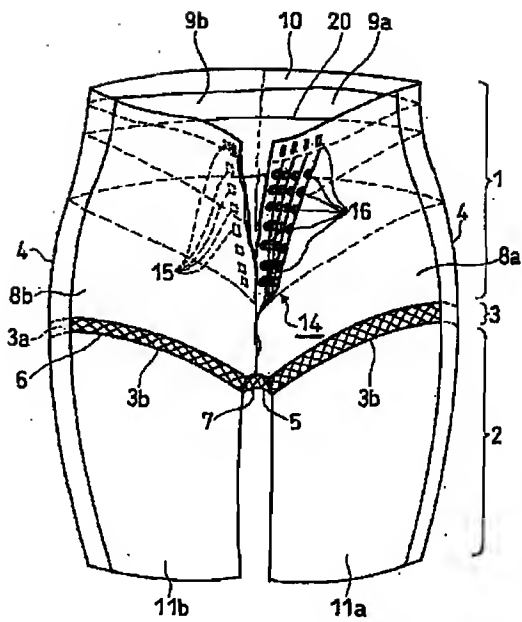
【図4】



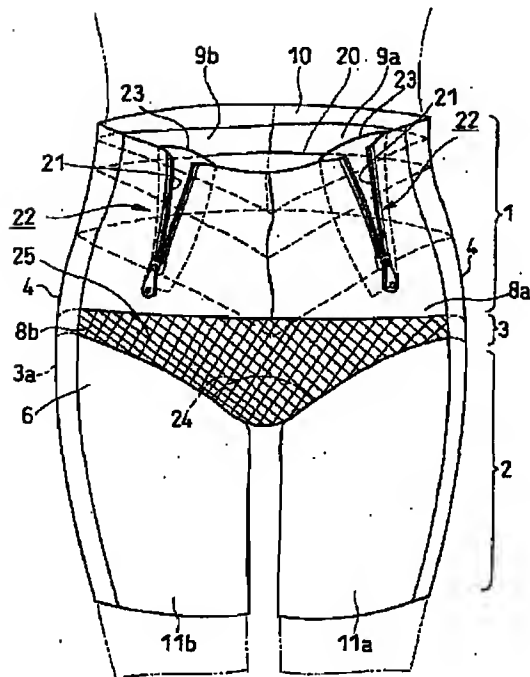
【図5】



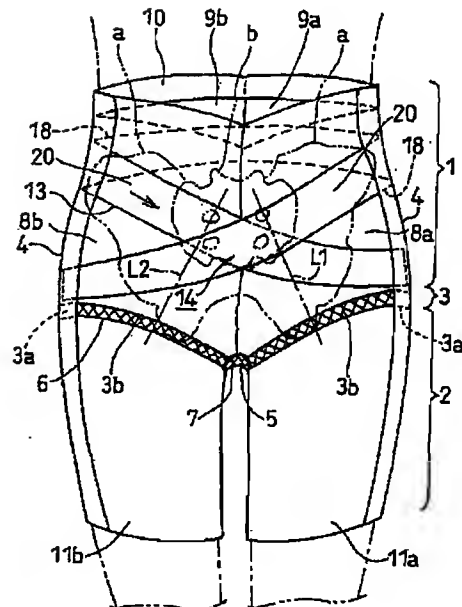
【図6】



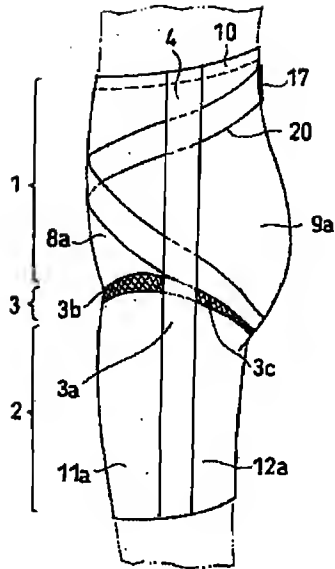
【図7】



【図8】



【図9】



【図10】

